

# 闘いは労働者を鍛え すぐれた文学を創る

## ちかく「闘争文学特集」を

編集部では、今年も例年にならぬ「新年文集」を募集したが、募集方法の不徹底や応募期間が短かったことなどの理由で、本紙(新年特集号)では予定の選者による選評ができませんでした。従って本紙に掲載している諸作品は、編集部が特別に依頼して寄稿していただいたものと応募作品の中から編集部が選んだものです。闘いは、労働者だましのききたえ、人間を鍛えていく闘い、必ずすぐれた作品を創りだす利源追求に狂奔する資本の冷酷な人間否定の本質と取りまわりの対決をせまられたら、労働者にとつて、それは当然のことです。闘争文学というべき道のない本来の姿を自覚したと、ながいいたします。



(寄稿)

### スクラム

三川支部 榎本 國義  
屈辱は雪雲暗き街路にて一途に歌う一旗振る仲間  
強いし追従の果ての憎しみの対決の如く風に鳴る旗  
反撥と鈍れる如き錯乱と雪雲は年改まる闘争の推移憎悪と月日地へ底き家並に今年又冬  
声合せ歌うその日を持つスクラム強き体温の温み

### デモ発進す

三川支部 木村 守  
投光の及ぶ明かるさ集りて標首に抗議のデモ練りだす  
飛行機のピラはしるる日の風吹かれて頭上に遠くおちゆく  
退職勧告来ると来ぬとの溝深く掘るやも知れぬ言動を聞く  
外に出て居る者は家に入れと呼ぶ退職勧告郵配さる  
自らが闘かいどこかに置きてはばからず資本の力うそぶくがあり

### 俳句

三川支部 中尾 種夫  
裏切りて友売るは誰ぞ救いなき製作労働に暮る憎しみ  
日の丸を宣伝塔になびかせて何企むか街のボス共  
テレビニュースに写れる舌の顔のこと子等は語りて夕餉に向う  
隣きて呼びかく如き時侯場の灯を遠く見て夜警に励む  
楳紅葉神紅葉陽に照り映えて闘う鉢山の朝の静けさ

### 企反闘争

三川支部 永野 鼎衣  
寒風に飛びつくデモの白きシャツ  
喉かざれば吃りて首の非を発く  
年つまるデモの足らず致さじ  
復職の決意かかゆるふとこころ手  
離れわれ炎火に怒母あつつけける

**児童つり方**  
おとうさんのスト  
二ノ川 政博  
九月ころから、おとうさんのストがありましたが、おとうさんは「ぼく、今はね、ストだから一しゅう間に一回ずつ、あげましようね」といっていた。もういつたまでぼくはなんだか、いやな感じになつてきました。おとうさんは「ぼく、はい」といっていました。おとうさんは「ぼく、かえながら、たかやんの家にあそびに行きました。やつぱり、たかやんもがつかりしていました。きよかちゃんもにわにや、いちじくの木にのぼつて、けしきを見ました。やつぱり、けしきに、おとうさんたちが、け



編集部選  
思あわせ冬空にしあわせの歌  
ハリケードの門をくぐりて冬が来る  
報告返上厚着してたしかに腕組み  
怒声は空へ若き鉢山の声凍る  
冬天をつくクビ切り反対旗ののりにきりこぼし  
主婦の声高く寒夜のデモの血の如き汗のしたたるままに  
かみしめる塩甘きまんと抗着し  
四ノ山 清本 春喜  
餅つけ鉢山に支援の餅重くとどく  
冬陽インターうたう主婦の背に  
四ノ山 馬場 春塔  
闘争旗あけて風のある冬空



編集部選

### 鉢帽

四ノ山 馬場ひさし  
もどきもどき  
守備固く固く  
古びた鉢帽な  
誰れがやが 誰れがやが  
一人は鉢山  
去つていつたの冬空



### 短歌

編集部選  
三川 永野 注水  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り

編集部選  
鉢山の主婦花も活けますねむく  
闘争の中で終る古層  
闘争のスクラム恋のはじめです  
スクラムをはらりと解いて要となる  
抗帽のくぼみにボタを当ててみる  
坑口の主婦の慰問をまぶしがかり  
せなの子も鉢巻がけるデモの母  
三川 古賀 充  
ちち責むる正義派の子よ父うれし  
経営者から債務者と名が変わり  
三川 正吉  
首の座にすわり身に沁む労働歌  
威勢よく今日は掛ではないコップ  
本所 野口次郎  
籠城の監視は怪獣の如く見え  
宮浦 中西長輝  
バス降りて故郷のちように迎えられる  
挨拶のおしりへバスはせきたる  
三川 牛島信夫  
ボタ山に沈む夕陽の古代め

三川 牛島信夫  
ボタ山に沈む夕陽の古代め

三川 牛島信夫  
ボタ山に沈む夕陽の古代め

**安部反对いろはかるた**  
犬も歩けば基地にあたる  
論より証憑沖繩のナイキ  
花にも放射能灰  
はつた三羽に二百億  
はつた三羽の災害対策  
兵隊なくす軍艦案  
とんで火に入る相互防衛  
力の政策ゆきつづ  
法律者に税派山  
ぬれ手にアブの死の商人  
類は友をよぶNEATO  
おいてきばりの岸外交  
わかな解釈も憲法九条  
勝手の解釈も憲法九条  
敵もしゅうとも平和行進  
高い税金でロッキード  
冷戦より平和共存  
そのつぎは徴兵制  
つづつげまの物価値上げ  
ねらいは自衛隊の海外派兵  
流れにそむいた再軍備  
楽にならぬ国民生活  
むかし犯した総理  
裏切られた月給二倍論  
井の中の政府世界を知らず  
のらりくらりの大臣答弁  
おにも笑う長期十年  
くされ縁の日本関係  
ヤマは首切りの風  
またもでてる警備法  
憲法違反の米軍駐留  
文も取締る防謀法  
こつそり進めた改定交渉  
ええしやないかですすまされぬ  
鉄砲よりスコップ  
アットいわせた月ロケット  
雑音で松川勝ち  
気になる自衛隊の核武装  
誘導弾は中ノ狙い  
目玉がとび出る防衛予算  
じゅうな言論奪われる  
絵にかいた防衛予算  
ヒモつきの外資導入  
もうひとおしの安部反对  
政府の好きな赤呼ばわり  
すつきりしない事前協議  
きょうの夢中立日本

三川 牛島信夫  
ボタ山に沈む夕陽の古代め

三川 牛島信夫  
ボタ山に沈む夕陽の古代め

三川 永野 注水  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り  
過激派の短歌は毎々不意の来り